

会議録：「令和2年度第2回恵那市産業振興会議」

日時：令和2年12月24日（木曜日）16：00～17：15

場所：恵那市役所会議棟大会議室

参加者：出席14人、欠席1人（別紙参照）

1. 開会

○事務局「第2回恵那市産業振興会議を開会します。」

2. 会長あいさつ

○森岡会長「10月19日に開催した第1回会議では、令和2年度事業概要やコロナ禍での社会情勢の変化への対応などについて議論いただきました。今回は、①ビジョンの課題・部会での意見・対応状況、②令和3年度以降に実施すべき方向性について説明いただきます。さらに今後の議論をいただきます。東京では過去最高となる887人の感染者が出ました。アフターコロナが見えない状況では、選択と集中で一点突破する施策が必要。そのためには現在の振興会議をステップアップし、有効な施策を検討する必要があります。有効な施策の方向性について議論いただきたい。」

3. 市長あいさつ

○小坂市長「今年度2回目の開催となります。委員の皆さまには感謝申し上げます。コロナの影響をどの程度測るかは難しい。1年前のような状況が戻るか分かりません。11月に市長としての2期目を迎えました。森岡会長のお話にありましたが、振興会議をステップアップし、来年に向けて深掘りしたい。活発なご意見をお願いします。」

4. 議事

(1) 産業振興の課題・検討部会等での意見・対応状況

(2) 令和3年度以降に実施すべきと協議された事業の方向性

○事務局から各分野について令和3年度以降に実施すべきと協議された事業の方向性を説明し議論。

【商業観光分野】

○委員「知的観光を検討してはどうか。佐藤一斎、下田歌子など有名な教育者がいる。ICMGと連携して知的観光を取り入れた企業研修を考えてはどうか。知的観光は他の地域ではやっていないので差別化になる。」

○委員「Go to 商店街の申請をしたが、イベントをやってほしいと言われ見送りになった。瑞浪ではイルミネーションが採択された。商品券などはないので続けてほしいが、一歩進めてデジタル化も進めてほしい。泉佐野市では行政ポイントも取り入れた地域共通ポイント制度を導入し有効に使っている。子供の見守りなどもできて大勢が参加。恵那・中津川地域で使える地域共通ポイントを創設してほ

しい。以前はお店が大きな負担をしてキャッシュレス等を導入していたが、今はお店の負担なく始められる。QR コードだけでいい。商工会議所と連携しながら導入している地域が多い。先進地を参考にしながら新しい商業、地域通貨を研究してほしい。具体的な対策を若手勉強会の議題に入れてほしい。」

会長「コストがかからないアプリケーションが開発されているので研究を。色んな施策を統合してコストかけずできる可能性がある。」

委員「企業は ISO などキャッチコピーを掲げ社員を鼓舞する。事業の方向性の中にアウトドアなど掲載されている。アルベルゴディフーズの登録を目指してはどうか。岡山県矢掛町は古民家再生をテーマに登録している。恵那はアウトドアをテーマにするといい。会議所等の役割があるので一緒に絵を描いて目指すことがステップアップになる。具体的に研究して意思表示をしてほしい。」

委員「『麒麟がくる』を機に、恵那には山城がたくさんあり、歴史的に厳しい環境であったことを実感した。掘り起こしていく魅力はたくさんある。新しいアプリでいろんな商売の原点が変わってくる。新しい時代にマッチした経営に対応しなければいけない。」

会長「恵那にはストーリーがあるので知的観光に生かせる。外部の人にいかに発信するかが重要。新しい需要に基づく対応が必要ですが、キャンプ場もありプラスに転じると考えています。」

【工業分野】

委員「テクノパークには NTT 光回線がないため通信面で困っている。アミックスは NTT について行っていないので差が開いていく。企業誘致でも不利になる。」

会長「インフラの整備も必要。」

委員「高卒の市内就職は令和 2 年度 84 人でしたが、令和 3 年度は現時点で 100 人を超えています。恒常的に続くのが好ましい。全国の 3 年以内の離職率が 40% 近い。市内の状況は把握できていないですが、定着・育成支援が重要になってくると考えます。」

委員「コロナの影響で需要が変化しています。アウトドアは有効。ICT 化（デジタル化）に関する企業の声は、コストがかかるので助成がほしいというもの。一般の事業者が分かりやすい助成金があるといい。業態変換が重要。元に戻ることでより新しい時代に合わせることで重要となってくる。」

副会長「製造業の皆さんと話すと面白いことをやっているのを実感します。高い技術を持っているのに、昨年、一昨年は人材が採用できなかった企業が多い。学校の先生が企業を十分に理解できていないのでは。企業、商店、人を外に発信するだけでなく、外にいる人たちからも発信して

もらう。知的観光を進めれば色々な人が来る。例えば学者に発信してもらうなど。

プレミアム付商品券の追加販売をやった時、市長から宿題をもらった。これまでと同じことを繰り返すのではなく新しい仕組みを考えるもの。ポイント制度やカード化など付加価値のある仕組みに変えていく。売り上げを伸ばすだけでなく先を見据えた仕組みを考えていかなければならない。」

会長「高い技術を評価できる人がいない。外部から目利きしてもらい発信してもらう。分かっている人に皆が分かる様に発信してもらう。専門家による発信。新しい展開に結びつく可能性もある。」

【農業分野】

委員「えなてらすの売上 1 億の 2 割は野菜だが飯田産が多い。安定供給できないため恵那産が売れない。何か方法はないですか。」

委員「他市のマーケットも野菜がない場合は近隣他市から仕入れてやっている。オンシーズンは恵那産を売る。販売できれば新規就農者にも勧められる。イチゴなどその時期に採れるものを押していく。市内流通を増やしたい。恵那峡線に長野県産のものが売られている。小さな直売所との連携も考慮しながら地元の直売所を整備できないか。」

委員「人・農地プランをまとめている。農産物を作って売れるところがないから生産者も作れない。外から来る人は地元産を求めてくる。プランで生産量が増える内容を。米の消費が減っているので高収益作物を作って売っていくことも必要。林業に関しては良い材以外はチップにしかない。予熱を使ってトマトやいちごを生産できないか。農林の連携を深めたい。」

会長「国の予算を使って資源を有効利用することが今後の課題。広域的な地域で供給し合う農産物の供給体制を整備する必要がある。」

【林業分野】

委員「林業は人件費に助成もらっている。高性能機械がないと木を搬出できない。今年度の採用は 3~4 人の応募があった。コロナの影響。ただし、資格なしで入ってくるので 2 年くらい研修期間が必要。支援はありがたい。小径木は小さいものしか製材できない。地産地消できるよう製材できる場所も必要。」

委員「高山では広葉樹を使って匠の技術を生かすための講座を開催している。最終的には東京で売ることを目指している。恵那の PR になるので木工製品の開発も必要。」

会長「付加価値の高い工芸品や民芸品への展開が必要ということですね。」

(3) 今後調整すべき内容

会長「事務局から説明のあった内容以外に今後調整すべき内容があればお願いします。」

委員「来年度事業は検討中です。コロナ後の社会に対応する事業を出す予定。スマートワーク推進ネットワークや補助制度により D X 推進へ向け動いている。人材確保については移住定住を活用しては。特徴的な技術を使っている企業あるので他の地域の人にも PR を。アウトドアは時代にマッチしている。オートキャンプ場はびっくりするほど安い値段で利用されているのでビジネスモデル化してお金を落としてもらおうようにすべき。」

会長「収益モデルが重要ということですね。付加価値が上手く評価されていない。自然に恵まれていて文化的資産も多いのでどんどん発信を。」

会長「活発に議論いただき、ありがとうございました。本日の意見を踏まえさらなる産業振興施策の検討をお願いします。」

5. 閉会

○事務局「今回の会議はこれで閉会とします。」